

実践者養成講座

グリーフプログラム

～津波を体験した子どもを地域で癒す～



子どもが津波や地震で受けた心の衝撃は周囲からは見えにくく、一人で抱えていることが少なくありません。周囲の人が気づいても、どうしてよいのか分からないこともあるでしょう。

このようなグリーフ（悲嘆）を抱えた子どもたちには、遊びや会話を通して、時間をかけて気持ちを解きほぐしていく癒しの“場”と“人”が必要です。

この講座は、子どもたちに寄り添うグリーフケア活動を行う実践者（ファシリテーター）を養成するためのものです。

ご参加くださったみなさんと一緒に、これから東松島でグリーフケアプログラムを実施していきたいと考えています。

子どもたちのために、みなさんの“一歩”が必要です。ご参加をお待ちしています。

講師は、米国や日本のグリーフケアに大きな影響を与えているシンシア・ホワイトさんです。

と き 2015年 9月 26日（土） 午前10時～午後5時
27日（日） 午前9時30分～午後4時30分

と ころ 東松島市・小野市民センター （小野新欠下36）

定 員 30人 （定員になり次第締め切り）

参加費 3,000円

対 象 学校関係者、子ども福祉の関係者、一般市民のみなさん
・ 2日間の全日程に参加できる方。
・ 専門的な知識や経験の有無は問いません。興味のある方はぜひご参加ください。

講 師 シンシア・ホワイトさん （米国キッズ・ハート・トゥー・ハワイ創設者）
*通訳が付きます

主催／朝日新聞厚生文化事業団、後援（申請中）／東松島市、東松島市教育委員会
協力／Kids Hurt Too Hawaii

津波を体験した子どもを地域で癒す グリーフプログラム 実践者養成講座

講演内容（予定）

- ① ト라우マとグリーフの影響、違い
- ② グリーフの理解
- ③ 自分自身のグリーフ
- ④ 子どもの遊びや語りに寄り添うスキル
- ⑤ プログラムの実際

■子どものグリーフケアプログラム

グリーフとは、喪失による悲しみや苦しみ、会いたい気持ち、自分を責める気持ちなどのあらゆる感情で、誰にでも起こりうる健全なものです。こうしたグリーフへの癒し（ケア）は、治療を目的とするカウンセリングとは異なります。子どもの成長に応じて、遊びや会話を通して、一人ひとりが自分のペースで気持ちを整理していくプロセスをともに歩むものです。

■東松島市でのグリーフケアプログラム

東松島市と市教育委員会、地域の方々のご理解とご協力で、講演会「津波を体験した子どもたちに寄り添う」を6月24日にコミュニティセンターで開催。約80人の市民のみなさん、学校の先生方などにご参加いただきました。

今回の養成講座の後、子どもプログラムを東松島で具体的にスタートします。

■キッズ・ハート・トゥー・ハワイ(Kids Hurt Too Hawaii)

「Kids Hurt Too」は「子どもの心も傷ついている」の意味。見過ごされてしまうことの多い死別や離婚、虐待などで身近な人と離ればなれになった子どものグリーフやトラウマのケア（癒し）を重視して実践するハワイ州ホノルル市が拠点のNPO。ハワイで実施する支援者養成プログラムには、各国から参加があり、グリーフケアの指導者を養成する取り組みを日本でも行っています。

お申し込み方法

参加希望のすべての方の①お名前(ふりがな)②〒・ご住所③電話番号④ご職業を明記の上、EメールかFAXでお申し込みください。HPからも申し込めます。先着順です。

- ・ 参加券を送付しますので、当日ご持参ください。

お申し込み・お問い合わせ

朝日新聞厚生文化事業団「グリーフ研修」係
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
Tel:03-5540-7446 Fax:03-5565-1643
Email:childg@asahi-welfare.or.jp
<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

地図 小野市民センター（東松島市小野新欠下36）



FAXでお申し込みの際は、下記にご記入のうえ、送信してください。

ふりがな 名前	〒・住所	電話番号	職業
	〒		
	〒		